



小田小だより

平成25年 6月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 Tel.045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校

お父さんの温かい思いもいっぱい注がれている ～ 「夕方の三十分」の詩に思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

父子、母子のご家庭にも思いを寄せながら、上記のタイトルで学校だよりを書いておりますことをどうかご了承ください。

夕方の三十分

黒田三郎

コンロから御飯をおろす
卵を割ってかきまぜる
合間にウィスキーをひと口飲む
折り紙で赤い鶴を折る
ネギを切る
一畳に足りない台所につっ立ったままで
夕方の三十分

僕は腕のいいコックで
酒飲みで
オートチャマ
小さなユリのご機嫌とりまで
いっぺんにやらなきゃならん
半日他人の家で暮らしたので
小さなユリはいっぺんにいろんなことを言う

「ホンヨンデェ オートチャマ」
「コノヒモホドイテェ オートチャマ」
「ココハサミデキッテェ オートチャマ」
卵焼きをかえそうと 一心不乱のところへ
あわててユリが駆けこんでくる
「オシッコデルノー オートチャマ」
だんだん僕は不機嫌になってくる
化学調味料をひとさじ
フライパンをひとゆすり
ウィスキーをがぶりと一口
だんだん小さなユリも不機嫌になってくる
「ハヤクココキッテヨー オート」
「ハヤクー」

かんしゃくもちのおやじが怒鳴る
「自分でしなさい 自分でエ」
かんしゃくもちの娘がやりかえす
「ヨッパライ グズ ジジイ」
おやじが怒って娘のお尻をたたく
小さなユリが泣く
大きな大きな声で泣く

それから
やがて
しずかで美しい時間が
やってくる
おやじは素直にやさしくなる
小さなユリも素直にやさしくなる
食卓に向かい合ってふたり座る

5月は命をつなげてくれた母親に感謝する日がありました。5月の第二日曜日の「母の日」と、5月5日の「こどもの日」です。

「こどもの日」は昭和23年に祝日になりましたが、祝日を決める法律「国民の祝日に関する法律」では、「子どもの人格を重んじ、子どもの幸福をはかる」日となっています。この法律はさらに「とともに、母に感謝する日」と続いているのです。4月30日の朝会で、子どもたちに「こどもの日にもお母さんに感謝してください。求めるだけでなく自分から感謝を周りの人に与えてください。与えた分、いつか返ってきます。命のつながりと同じように感謝もつなげましょう。」と話しました。

今月は「父の日」がやってきます。子どもたちはお父さんと会話をしていますか。会話をする機会はお母さんと話すよりも少ないというのが大方ではないでしょうか。しかし、お父さんの思いをたっぷり注がれて、子どもたちが今ここにいることを忘れないでもらいたいです。

左の詩は、詩人黒田三郎の「夕方の三十分」です（中学校の国語の教科書にも採用されています）。

詩人は、娘のユリと二人だけで住んでいました。お父さん詩人は、家庭の中でお母さんの役割もこなさなくてはなりません。慣れない料理を作ったりします。そのかわりでは、まだ小さな娘のユリがいろいろなことを言います。そっちにも耳を傾けなくてははいけません。てんでこ舞いです。けんかになってしまいます。そんなある日のひとコマです。

実は、このときお母さんは入院していたのです。この詩人の「九月の風」という詩を読むと、そのことがよく分かります。ユリとお父さんのふたりでお見舞いに行く内容が綴られています。

いろいろな騒動があつてやっと出来上がった夕食を娘の小さなユリと一緒に食べるのです。この時のお父さんと娘さんは、どんなことを考えながら食事をしているのでしょうか……。温かい気持ちが伝わってきませんか。

「父の日」というと、「母の日」に比べてどうも印象が薄いような気がするの、私だけでしょうか。しかし、子どもたちの成長には、お父さんの温かい思いもいっぱい注がれていることを、父の日がある今月、子どもたちに改めて考えさせてみることも必要ではないでしょうか。照れ屋ではにかみやのお父様方を代表しての私からの提案です。